

力を尽くした横浜市長選挙

加治礼子（ネットとつか）

コロナ禍で、力を尽くした横浜市長選挙投票日、満を持して開票結果を待ちました。山中竹春さんの推薦を決めたネットとつか、磯子市民ネット、ネット旭、ネット緑にとつて、特別な日となりました。

1年8カ月前から始まった「カジノの是非を問う住民投票条例制定を求め署名活動」は、横浜市民の会が母体となり18の区で区民の会を立ち上げ、今年はじめ、19万3193筆の署名を横浜市に提出しました。しかし市会では自民公明の反対で否決されました。この運動の継続が、今回の横浜市長選挙

挙における山中さんへの応援につながりました。18区民の会の街頭はたくさんの方の市民参加で盛り上がりました。

ネットとつかには、この市長選挙を通して、会員からの激励のファックスやメール、連日のハードな駅頭にも駆けつけてくれる会員、そして、ネット以外の多くの仲間ができました。戸塚区の中で神奈川ネットを知ってもらった大きなチャンスとなったこと、会員や関係団体にこの活動を伝えられたこと、山中さんの当選という結果を受け、今後の地域活動につなげます。

横浜市長選挙を終えて

2021年8月22日

対話から生まれる政治を

青木マキ（ネット青葉）

横浜市長選挙の結果が出ました。当初大きな争点は「カジノ・IRRの是非」と言われていたものの、蓋を開ければ候補者8人中6人がカジノ反対を表明。国家戦略として、誘致に旗を振ってきた自民党を掲げ立候補し、さらにIRR誘致を推進し、議会でもなく市民のカジノの是非を問う条例案を否定した多くの自公議員がこれを支持した時点で、カジノ・IRRは止まることほぼ確実となりました。

今回の市長選挙は、衆議院選挙を控え、その前哨戦としても大きな注目が集まりましたが、このような情勢だからこそ、私たちは、国の政治に左右されることなく、地域から市民の政治参加を広げるローカルパーティーの役割を再確認し、参加型のアクションに取り組みたいと考えました。

備会、及び、横浜エリアの生活クラブ運動グループとともにオンラインによる「政策提案リレー」を開催しました。市民アンケートや福祉現場からの提言をまとめた提案について、候補者と直接対話し見解を聴くという試みです。8人の候補者のうち5人が参加、2人が文書で見解を寄せ、オンラインの意見交換には延べ500人が参加。有権者はもちろん候補者からも「対話」の重要性を実感した、政治が身近になった、投票を呼び掛けたいといった意見が多数寄せられました。結果、投票率も49・05%と前回2017年を11・84ポイント上回りました。



抗原検査キット配布には 的確な情報提供ができる環境整備を

県議会だより

佐々木ゆみこ（ネット宮前/県議）

8月27日臨時会では、ワクチン接種対象年齢に達していない小学生ならびに幼稚園・保育園児のいる家庭に、抗原検査キットを2つずつ配布する補正予算が提案されました。感染者年齢が低くなっていること、小学校・幼稚園・保育園のクラスターが増えていること、さらに家庭内感染が急増していることへの対策です。

に増えると思われます。緊急事態宣言の発出により県境を超えての移動は制限され、親・親戚を頼ることができない家庭も少なくありません。現在、県所管域の県央・湘南地域の3カ所の施設に、一時的に子どもを保護するために19床を設け、これまで幼児から高校生までの14人の受入れ実績があります。2歳未満の乳児は小児コロナ受入れ機関が陰性でも預かることとです。このことは、保健所・児童相談所と情報共有されていますが、実績の数字からも市民にあまり知られていないことは明らかです。

検査キットは家庭内感染防止のために、子どもに限らず同居の家族も使用することが想定されています。県の調査でも、コロナ感染の症状が出て、病院に行くことをためらう人が一定数いることが明らかになっており、PCR検査も感染爆発により受付できない事例も出ています。抗原検査が家庭でできることは一定の評価をするものですが、次のようなケースが考えられます。

学校や保育園・幼稚園で検査キットを配布する以上、困ったときの問い合わせは、それぞれの現場に行く可能性が大きく、混乱することも想定されます。学校などに問い合わせがあった際、たらい回しにすることなく、県の情報が的確に提供できるようマニュアルや環境整備を提案しました。

編集後記 2019年に池袋で11人が死傷した暴走事故の被告に対し、自動車運転処罰法違反で禁固5年の実刑判決が出された。アクセルとブレーキの踏み間違いとされているが、75歳以上の高齢ドライバーの事故は増加傾向だ。免許更新時には高齢者講習や認知機能検査が義務付けられているが、交通不便地域では車なしでは生活できない。2021年11月から販売される車には衝突被害軽減ブレーキが義務化されるが、誤発進抑制や夜間歩行者検知機能等の車の安全機能向上は欠かせない。また、自動運転車の導入も急がれる。一方で、施策として使い易い交通手段の確保も必要だ。安心して免許返納できる環境整備が求められる。

神奈川ネットは、地域政党です。

生活の課題は政治に直結しています。

国の政党が、地方の政治までコントロールするのはなく多様な地域政党が政策を競い住みやすいまちをつくる社会をめざします。

今月の神奈川ネット

- 市民の生活・活動法律相談：9/15(水)
- 第7回運営委員会：9/23(木)

海老名 地域のうごき

福島に届けるひまわりの花満開

西田ひろみ（ネット海老名）

7月下旬、海老名ネット事務所の庭先にひまわりが咲きました。

福島に届けるひまわり油を取る花です。生活クラブ運動グループ主催の東日本震災復興支援祭りに毎年参加して、被災地のみなさんと繋がっています。

4月に神奈川ネット学習会「3・11から10年福島の現状から知る」に参加しました。学習会の講師でNPO法人シャローム理事の大竹さんの話によれば、福島第一原発事故から10年経っても、生活再建への道は険しく、特に障がい者施設では困難であることがわかりました。NPO法人シャロームは福島市で障がい者の自立支援として、農家の高齢化による耕作放棄地にひまわりを栽培し、ひまわり油の生産を震災前から行っていました。3・11による土壌汚染で、福島でのひまわり栽培が困難になり「ひまわりプロジェクト」で

県外に栽培を呼びかけて、全国で栽培されたひまわりの種から油生産を続けています。



海老名ネットの事務所は木立に囲まれた戸建てです。南の庭先にひまわりを植えて、福島支援の一助になろうと100粒取り寄せました。事務所に20粒、その他市民へ呼びかけ10人で栽培中です。5月連休明けに種をまき、毎日の水やり、芽が出た喜び、そして、今、大きく花を咲かせています。「3・11を忘れない！コロナ禍に負けない！そして何よりも人と人の繋がりを大切に！」と、種を収穫し、福島へ送る日を楽しみにしています。

大和 地域のうごき

福祉政策を市民とともに提案

布瀬めぐみ（大和市民会議/市長）

8月31日(火)、大和市で活動する高齢者・子育て・配食・移動・アジアの女性支援などを行うワーコレやNPO等と生活クラブ生協、大和市民会議で構成するコミュニティ・オプティマム福祉地域協議会大和の所属団体の代表3人と議員3人で市長に「2021年度福祉政策提案」を提出し、意見交換を行いました。

デルタ株の拡大を受けて、接触機会が多くクラスター発生の可能性が高い保育園からは、家庭保育が可能な家庭への保育園自粛要請と欠席した日数に応じた自粛中の保育料減免の要請をしました。福祉有償運送登録団体から市が主催する大臣認定運転者講習の提案、生活クラブ生協からは学校給食に対する食の安全と石けん洗浄についての提案などを、現場の状況と共に伝えました。

子どもの居場所と権利プロジェクト 報告書ができました

お問い合わせは各地域ネットに

